

科目名	精神看護学演習 I B Psychiatric and Mental Health Nursing Seminar I B		担当教員 (研究室番号)	奥野史子 (非常勤) 木戸芳史 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	kyomutanto@ml.mcn.ac.jp				
履修年次	1年次前期	科目区分	専門科目	選択区分	コース必修	単位数(時間)	2(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
科目目的	<p>本科目は、精神的に困難を抱える人及びその家族と信頼関係を構築するためのコミュニケーション技法を学習し、精神看護理論に基づいたアセスメントと高度実践看護の基本となる援助技法を習得することを目的とする。また、対象者を取り巻く組織や医療チームを理論枠組みを用いてアセスメントすることを目的とする。</p> <p>なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準(専攻分野共通科目)「4. 精神看護理論・援助技法に関する科目」に相当する科目である。</p>										
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	7. 看護学の特定分野における卓越した看護実践能力を修得している。									
	関連するDP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護における患者-看護師関係の理論を理解し、説明することができる。 2) 精神看護におけるコミュニケーション技法を理解し、説明することができる。 3) 適切な評価指標や精神看護理論モデルの枠組みを用いて対象者やその家族をアセスメントすることができる。 4) 包括的アセスメントに基づいて看護計画を立案し、高度実践看護の基本となる援助技法を検討することができる。 5) 対象者を取り巻く組織や医療チームを精神看護理論の枠組みを用いてアセスメントすることができる。 4) 生命倫理・医療倫理に関する基礎的理論と高度実践看護師が行う倫理調整について説明することができる。 										
成績評価方法(基準)	<ol style="list-style-type: none"> ①レポート(30%) ②演習内容及びディスカッションへの参加(70%) 										
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・高度実践看護 統合的アプローチ。へるす出版(2017) ・精神看護スペシャリストに必要な理論と技法。日本看護協会出版会(2009) 										
参考書等	随時紹介する										
受講者へのメッセージ	高度実践看護の基盤となる精神看護理論や援助技法を、模擬患者への看護展開を通じて学習していきましょう。前半では、精神看護におけるコミュニケーション技法や患者-看護師関係について学習します。										
備考	<p>【第6回～第8回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例1の対象者やその家族の状態像に応じた看護理論、評価指標を選定し、枠組みを用いたアセスメントを実施する。 ・包括的アセスメントに踏まえて専門看護師としての実践を検討し、履修者及び教員でロールプレイする。 <p>【第11回～第12回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例2の対象者や取り巻く集団(組織)が抱える課題に応じて、対象者の包括的アセスメント及び組織分析を行う。 ・アセスメント及び組織分析を踏まえて専門看護師としての実践を検討し、履修者及び教員でロールプレイする。 <p>【第14回～第15回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回の講義内容を踏まえ、倫理調整に関する事例検討会ができるよう準備する。 										
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	患者-看護師関係①			<ul style="list-style-type: none"> ・演習目標(目的)、演習日程、演習課題を確認する。 ・ペプロウ対人関係モデル、患者-看護師関係の理論を学習する。 				奥野木戸	講義		
2回	患者-看護師関係②			<ul style="list-style-type: none"> ・ペプロウ対人関係モデル、患者-看護師関係の理論を臨床場面に於いて活用する方法について学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、モデルを用いて対象者にどのように対応するのか、ロールプレイ等を用いて学習する。 				奥野木戸	演習		
3回	コミュニケーション技法①			<ul style="list-style-type: none"> ・患者-看護師関係を築くための基本的なコミュニケーション技法(視線、位置、トーンと速度、質問と応答、沈黙等)について学習する。 				奥野木戸	講義		
4回	コミュニケーション技法②			<ul style="list-style-type: none"> ・履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとにした模擬事例に対して、学習したコミュニケーション技法をどのように用いて対応するのか、履修者や教員とのロールプレイ等を用いて学習する。 				奥野木戸	演習		
5回	プロセスレコード			<ul style="list-style-type: none"> ・ペプロウ、オーランドー、ウィーデンバック等によるプロセスレコードの目的及び基礎的知識、臨床における活用方法について学習する。 				奥野木戸	講義		
6回	模擬事例に対するアセスメント演習①			<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例(本人・家族)に対して、本科目及び精神看護援助論Iにて学習した精神看護理論の選択、評価指標の選定を行う。また、履修者及び教員でその内容を検討する。 				奥野木戸	演習		
7回	模擬事例に対するアセスメント演習②			<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例(本人・家族)に対して、本科目及び精神看護援助論Iにて学習した精神症状・身体症状・セルフケア・社会機能・家族機能等の包括的アセスメントを行う。また、履修者及び教員でその内容を検討する。 				奥野木戸	演習		
8回	模擬事例に対するコミュニケーション演習			<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例(本人・家族)に対する包括的アセスメントに基づき、本科目で学習した技法を用いたロールプレイを履修者及び教員で行う。 				奥野木戸	演習		
9回	コラボレーション(協働)			<ul style="list-style-type: none"> ・精神的困難を抱えた人を支援する様々な専門職等とのコラボレーションについて「高度実践看護 統合的アプローチ」第12章を用いて学習する。 				奥野木戸	講義		
10回	組織分析、組織への働きかけ			<ul style="list-style-type: none"> ・SWOT分析等の手法を用いて組織を分析する方法を学習する。また、また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、組織分析及び組織への働きかけについて学習する。 				奥野木戸	講義		
11回	模擬事例に対するアセスメント演習④			<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例(組織)に対して、本科目及び精神看護援助論Iにて学習した理論・モデルを用いた包括的アセスメントを実施する。また、履修者及び教員でその内容を検討する。 				奥野木戸	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
12回	模擬事例に対するアセスメント演習⑤	・模擬事例（組織）に対する包括的アセスメントに基づき、本科目で学習した技法を用いた介入ロールプレイを履修者及び教員で行う。	奥野 木戸	演習
13回	生命倫理・医療倫理に関する理論	・ピーチャムとチルドレス等、生命倫理や医療倫理に関する様々な理論について学習する。	木戸 奥野	講義
14回	高度実践看護師が行う倫理調整と実践①	・高度実践看護師が行う倫理調整について、履修生や教員の臨床での経験（事例）をもとに、理論を用いて対象者及び組織に対してどのように対応するのか学習する。	奥野 木戸	演習
15回	高度実践看護師が行う倫理調整と実践② 科目のまとめ	・高度実践看護師が行う倫理調整について、履修生や教員の臨床での経験（事例）をもとに、理論を用いて対象者及び組織に対してどのように対応するのか学習する。	奥野 木戸	演習